



令和7年1月17日
ななかいこども園

にじいろだより

NO. 21

新年を迎え、3週間がたとうとしています。お正月明け「あけましておめでとう！」と自分から挨拶をする姿が見られました。家庭の生活の中に、しっかりと伝統が根付いているのかなと感じます。また、園の誕生会では先生達の企画でこままわし、絵合わせ、だるま落としなどのお正月遊びを楽しむことができました。クラスでもたこあげ、すごろくなどで楽しみました。お正月遊びの中には、文字や数、形などに触れる遊びも多く、遊びの中から、自然に身につけていくことができます。おうちでも取り入れてみてはどうでしょうか？

【おいしく食べよう 4 …「なにを」食べ物の出し方…】

子どもは視覚、嗅覚、触覚、味覚の順で食べ物と仲良くなる

子どもは見た目食べる食べないを決める（視覚優位）ことがあります。1～2歳児は色が乳汁に似た白色、薄黄、薄茶の色をした食べ物を好むことが多いそうです。形が丸いものや人間の顔に似たものを好む傾向もあるそうです。メニューを考えるとときに子どもが今好んでいる色に似た食品がヒントになるそうです。

品数、バリエーションを増やすコツ・偏食があるとき・・・

- ・出す品はいつも出している品は必ず1品入れるようにする。
- ・食べ飽きを防ぐため、3から2日軽食を含め食事のメニューを変えていく。
- ・すべての基本はストレスなく食卓に座っていただけること。

家族がゆったり落ち着いて座っておいしそうに食べ、興味を示したら、さらにおいしそうに食べ、いよいよ欲しくなったら、もったいぶって、渋々、ほんの少し子どもの前に置くなんて方法もいいですよ。

- ・子どもが食べるかどうかは注目せずに保護者は食べ続ける。面白がりながらおいしく食べる。
- ・大人は食べ物であそんではダメとか落としちゃダメとか一切言わない。
- ・大人は言葉より素早く子どもの好ましい行動を真似します。
- ・子どものして欲しくない行動には注目せず、目をそらし、顔を背けて注目していないことを示す。

※ 偏食がある、家庭での食事が心配などの声が聞かれたので、これまで食事のことに关して4回シリーズで書かせて頂きました。ここでの内容は『「子どもの偏食外来」著 大山牧子 診断と治療社』を参考に書かせて頂きました。ご興味がある方は本をお貸ししますので、お声かけください。

〈感想ありがとう！！〉

前回の「にじいろだより」で欲しい本、本や取り組みの感想などを募集したところ、以下の感想が寄せられました。

・「バムとケロシリーズ」同じ本でも繰り返し借りてきます。好きな本は決まっているみたいです。

・自分で手に取らない本も子どもが借りてきてくれると、新しい発見があり、とても面白かったです。このまま絵本の貸し出しを続けて欲しいです。

ありがとうございます。今後もみんなが借りやすいよう、工夫して続けていきます。バムとケロのシリーズ他にもあるので購入を検討しますね。桂図書館からもリサイクルの本をたくさん頂きました。子ども達、喜んで見えています!!